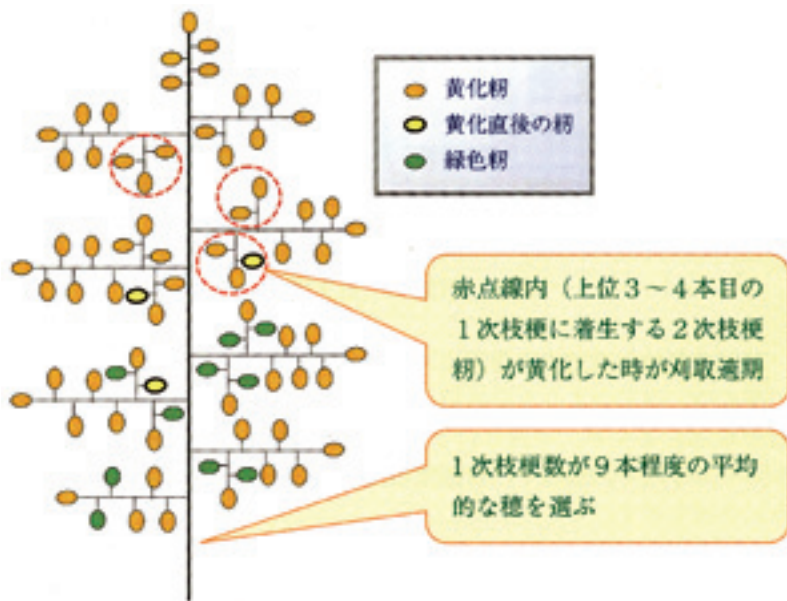


「特A」奪還に向けて 魚沼米憲章を遵守し 基本技術を徹底しよう

稲作 情報

収穫適期の黄化率85～90%の状況 (富山県水稻栽培指針から引用)

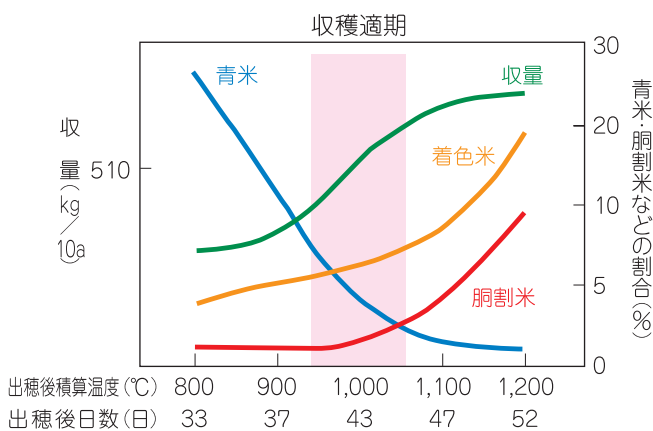


今年の特には生育差により出穂期のバラつきが大きい
ため、必ず粳の黄化状況を
確認したうえで、適期刈取
りに努めましょう。
また、適正な調整で高品質
米に仕上げましょう。

● 適期刈取りで 品質向上

刈遅れは胴割米や着色米
などが増加し品質に大きく
影響します。
収穫時期の目安は、粳の
黄化状況で判断します。圃
場全体の粳の85～90%が黄
化したら刈取り適期となり
ます。また出穂後の積算気

出穂後の日数と玄米品質



温を参考にしてもよいで
しょう。コシヒカリの場合
1000°Cが目安となりま
す。
ただし、高温で推移した
場合は収穫適期幅が短くな
り、刈遅れによる品質低下
がおこりやすくなります。
このような時は、収穫はじ
めを2日程度早めて刈遅れ
ないようにしましょう。(積
算気温950°C程度)

● 刈取り 乾燥上の留意点

①クサネム(コウボウチャ)
が見られる場合は刈取り前
に必ず取り除いてくださ
い。この種子は、調整や精
米をしても除去できず、炊
飯するとまわりのご飯粒が
着色してしまい、消費者か
ら非常に嫌われています。
②刈取りはできるだけ低水
分で行い、降雨後・早朝・

稲作情報



夜間の作業は極力さげましょう。高水分時の刈取りは損傷粒の発生が増加し、機械故障の原因にもつながります。

③変質米（ヤケ米）防止のため刈取り終了後は、できるだけ早く乾燥機で通風するようにしてください。カントリーエレベーターを利用する方は、速やかに搬入をお願い致します。

乾燥速度は1時間当たり0.5%で行い、仕上がり水分は15.0%としましょう。（過乾燥は食味低下につながります。）

乾燥機についている自動水分計は青米や屑米が多いと精度が低下する傾向がありますので注意をお願い致します。急激な乾燥は胴割れ粒が発生する原因となりますので気をつけてください。

また、乾燥が終了しても保管時の状況（温度・湿度・期間）で水分が変化する場合がありますので、注意が必要です。

●調整はていねいに

例年籾混入による格落、品質低下が目立ちます。

最終仕上げの調整作業をていねいに行いましょう。乾燥後、籾の温度が常温に戻ってから行い、ゴムロールの間隔などに注意し、必ず玄米の状況を確認しながら調整しましょう。

●稲わらすき込みの効果

稲わらのすき込みと、土づくり資材の併用により堆きゅう肥の施用と同等の効果が期待できます。

また、秋のすき込みは春に比べ、稲の生育期に発生するワキの原因となるメタンの発生や、根腐れの原因である硫化水素の発生を軽減させることができます。

●すき込みのポイント

稲わらの分解に係る土壌微生物は、15℃以下に

なると活動が鈍くなりま

す。翌年の稲の作付けまでに充分分解が進まないこともあるので、収穫後できるだけ早く地温の高いうちに行ってください。腐熟促進剤の利用も効果的です。遅くとも10月中には完了するようにしてください。

すき込みの深さは、作業効率と土壌微生物の活性に役立つ酸素供給などを考慮

して5〜10cmの浅うちとします。

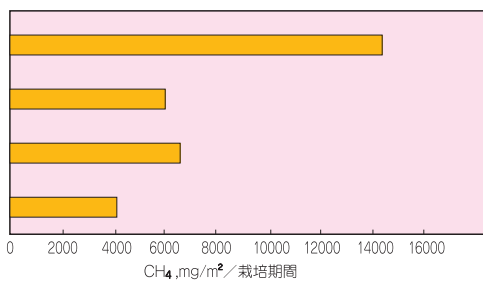
浅うちは、表面の稲わらが乾燥しやすいので、土と充分混和しておくことが分解を早めます。また、土壌水分が多いと分解が遅れるので、すき込み後は排水溝を作るなどして地表水の排水に努めてください。例年「ワキ」の発生が多い圃場では特に重要です。

●土づくり資材の施用

すき込み時に「パワースイル」または「魚沼ロマンアイアンスター」などを使用し土づくりを行います。

施用量は、10アール当たり40〜60kgを基準とします。土づくりを行うことにより、異常気象に対する稲の抵抗性が高まります。

翌年の稲づくりの第一歩としてしっかり行いましょう。尚、土づくりマップを参考にいただきたいと思います。



水田からのメタン発生量に対する稲わら処理の影響